

# 日本福祉教育・ボランティア学習学会 学会ニュース

Japan Academic Association of Socio-education and Service Learning

No.73

2020年11月11日

発行

発行人：原田正樹 編集委員：佐藤 陽 秋貞由美子 熊谷紀良  
〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町3番27号 ロリエ市ヶ谷3階  
TEL.03-5227-7101 FAX.03-5227-7102 Eメール jimukyoku@jaass.jp

## もしコロナがなければ・・・初のオンライン大会を迎えて

理事・副会長・オンライン大会実行委員長 諏訪 徹 (日本大学)

『もしコロナがなければ…』と、何十回、何百回思っただろうか。一緒に仕事をしている市社協の職員さんからもらったメールの書き出しです。そうだよなあ…と、しばし嘆息し、仕事の手が止まりました。会員の皆様も何度となく同じ言葉を思い、また、もしコロナがなければ無かったはずの生活の激変に苦しんでいる方々の声を聴き、支えてきたことと思います。そして、もしコロナが無かったら、おおさか大会からの歓迎の挨拶がこのニュースの巻頭言となっていたはずでした。大会の準備を進めて下さっていた大阪の実行委員会の皆さまにとって、中止の決断は苦しい選択だったと思いますが、この時の悔しい経験をいつかきっとまたすばらしいおおさか大会につなげていただけるだろうと確信しています。



さて、例年であれば開催地から歓迎の挨拶をするところですが、ここではオンライン大会開催に至る理事会での議論や準備の経過を簡単に紹介いたします。おおさか大会実行委員会の中止やむなしとの決定を受け、5月31日に臨時理事会が開催されました。選択肢としては、①中止する、②書面で開催する、③オンラインで開催する3つがあったわけですが、こうした時こそ研究活動を停滞させるべきではないとの意見が大勢を占め、理事会が直接開催する形でオンラインでプログラムを圧縮して開催することが決定されました。6月にはZOOMで2回の担当理事打合せ会と2回の臨時理事会を経て（こんな頻度で理事会をしたのは初めての経験でした）、大会の実施枠組みが決定されました。学会の研究活動の中核である課題別研究と、会員による自由研究発表は必ず維持するという判断をしたわけですが、参加費無料としたのは、プログラムを圧縮したことに加え、初の開催であり試行的な意味合いが強いためです。セキュリティを確保し、オンラインでの安定的な運営を期するために、おおさか大会に使うはずの予算の範囲内で、福祉教育・ボランティア学習への志を共有するシンクタンクWell-be Designさんに、運営サポートを委託することにしました。

「月1回のサロンの持つ意味がどれだけ大きかったのかコロナで実感しました」…サロンを続けてきた住民の方の声です。皆さんもまた、福祉教育・ボランティア学習の実践で、場から創発的に対話が進展していく面白さ、同じ場所で一緒に汗を流して活動する意味、言葉だけではなく身振り・表情など全身で互いを理解していたことなど、さまざまな発見や省察をすると同時に、オンラインでのつながりや学びに新しい可能性や課題を感じているのではないのでしょうか。もしコロナがなければなかつたらこのオンライン大会が、福祉教育・ボランティア学習の意義を改めて見つめ直し、新たな研究・実践や学会活動の展望を切り拓くものとなるよう、会員の皆様方の積極的な参加をお願いします。

※このスペースでは会員向けに大事なご案内をしています。会員の方は郵送されるニュース紙をご覧ください。